



2024年度 夏の水生生物観察会イベント報告②

～寒川町の目久尻川から～

大磯町の観察会に続いて、寒川町の観察会の報告になります。当日は32℃の猛暑にも関わらず、多くの地域住民の方々が観察会に参加してくれました。今回の観察会は、小学校高学年の参加者が多く、積極的に網を使って魚を採っているのが印象的でした。

今回の観察会では、ギンブナ、ミナミメダカ、ゴクラクハゼ、ヌマチチブ、オイカワ、カワムツ、カマツカ類が採集されました。甲殻類はヒラテテナガエビ、ミナミテナガエビ、ミゾレヌマエビ、アメリカザリガニ、カワリヌマエビ属が採集されました。昆虫類はハグロトンボ、コオニヤンマ、マメゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウが採集されました。

観察会で一番驚いたのが、土丹の露出です。土丹は砂利の下にある粘土層が露出する現象で、河川の氾濫時などに砂利が流されてしまったことなどが原因です。砂利が流されてしまっても、上流から供給されれば良いのですが、目久尻川の水源地は住宅街の真ん中なので、砂利が供給される見込みがなく、解決がとても困難な状況です。また、同じ問題が厚木市内の相模川の三川合流地点（中津川、小鮎川）でも問題になって

おり、アユなどの生態系に悪影響を及ぼす可能性があります。土丹が露出している場所はとても滑りやすく、大きな事故につながる可能性があります（筆者はこの日、土丹で滑って転んでしまい、水浸しになりました）。観察会は身近な河川に興味を持ってもらうイベントとして最高ですが、近年は、昔と比べると河川環境が大きく変化しているので、水難事故を防ぐためにも、河川に入る時はライフジャケットの着用と大人の方と一緒に出かけないようにしましょう！

内水面試験場 非常勤職員 嶋津 雄一郎



図1 水生生物の採集のレクチャーの様子



図2 観察会の様子



図3 採集されたゴクラクハゼ



図4 砂利が流されて露出している土丹